

コロナ禍・ポストコロナの地方における産業保健を考える

鹿児島大学医歯学総合研究科 衛生学・健康増進医学 堀内 正久
鹿児島大学桜ヶ丘地区 産業医

明けましておめでとうございます。このコロナ禍において、一般医療のみならず、産業保健活動に多大な影響が生じていると感じておられる先生方も多いのではないのでしょうか。影響の方向性として、そのベクトルの向きは、消極的な場合と積極的な場合があるようです。消極的な場合としては、職場巡視の回数が減った。職場健診がいつものようには行われなかった。そもそも職場に出かける回数が減った。一方、積極的な場合としては、感染対策としてのセミナー実施を頼まれた。安全衛生委員会ですら今まで以上に意見を求められた。職員のメンタルヘルス不調者増に対する対応を求められた。リモートワーク時の健康対策について意見を求められた。など、コロナ禍における職員の働き方に関わる相談に対応するものが増えているようです。これらベクトルの向きは、それまでの企業の産業保健に関する考え方が大きく影響しているように思います。産業保健に対する信頼度とか期待度といったものとも関連するかもしれません。いずれにしても、このコロナ禍やポストコロナの時代を見据えて、鹿児島の産業保健の質を高めるための支援が大学や産業保健総合支援センターなどの産業医を支える立場にあるものに求められていると感じております。

大学では、衛生学・健康増進医学分野と心身内科学分野の連携で、心身内科学分野のHPなどに、「産業医支援窓口」を設置する予定にしております。増加しているコロナ関連のメンタルヘルス不調者のみならず、それ以外の職場要因で生じたメンタルヘルス不調者に対して対応できる窓口とする予定です。産

業医活動にとってメンタルヘルス不調者への対応を支援する仕組みづくりは喫緊の課題で、産業医活動を円滑に行うために、必要な対応であり、具体的な方策を模索できればと考えています。また、産業保健の学びを深めている保険薬局薬剤師の皆様との協調の仕組みも構築できればと考えています。私の講座と連携して、保険薬局薬剤師の有志の方々が、産業保健を学ばれています。K-OPT (Kagoshima-occupational pharmacist team) という名称で活動し、すでに日本産業衛生学会の全国協議会のシンポジウムで発表するなど活躍をされています。薬剤師は、学校薬剤師として作業環境管理測定の実務を経験された方も多くおられ、思っている以上に産業保健の素養がある実践力の高い専門職です。感染対策は、消毒薬の取り扱いもですが、換気や湿度などの作業環境の管理も重要です。職場においても、作業環境管理の視点で、薬剤師の皆様方と感染症対策を一緒に考えていくことが期待されます。

コロナ禍・ポストコロナの時代は、地方の産業保健において、少ないマンパワーを種々の連携で補う良い機会になるのではと考えています。この一年が、鹿児島の産業保健の質が一段とアップされる時となりますことを願っております。また、末筆になりましたが、市医師会会員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念しております。